



東京土産から学ぶ！パッケージのいろいろ★

10月より企画営業となり、月に2度程上京しているのですが、毎度困るのが同僚女子への「お土産」。東京土産といえば、“ひよこ”や“東京ばな奈”が定番ですが、お土産はその人のセンスの見せどころ！月に2回もセンスを見せないといけないのは辛い処ですが…。今や観光スポットとなっている東京駅から、パッケージにもこだわりを見せた目新しい5品ピックアップしてみました。

●まず、「東京パステッコ プリンパンケーキ」。小さなパンケーキでプリン味のムースをサンドしたしっとりやわらかスイーツです。要は『洋風どら焼き』ですが、パンケーキという言葉ネーミングに入れるところに『仕掛け』を感じます…。バックの形のしましまパッケージが可愛い！！



●「流行りを意識」という点で、カステラを中心としたラインナップのお店 Hana SYUMPOO「東京厚切りフレンチトースト」も注目。以前、通信で触れたことがありますが、日本は今朝食ブーム！パンケーキ、フレンチトーストを売りにしたカフェがあちこちでできています。そんなブームを意識して、カステラという領域をほんのちょっと飛び越えたスイーツです。でかかとしたフレンチトースト1つをドーンと箱詰めしたのではなく、小分けにしています。パッケージはふつう～。

●次に全国ブランド「ヨックモック」から東京限定土産として発売された「東京ハニーシュガー」。甘い蜂蜜シロップを加えて、さくさく食感のゴーフレットです。商品自体に個性はあまりないのですが、「東京限定」ということと、パッケージはいつものヨックモックらしくない、かなりポップで可愛らしさを出している点が好感度あり！『らしくなさ』も時にはいいモノですね。



さて、以上の3つの共通点は、黄色～オレンジ系等の色合いのパッケージです。食品パッケージにおいて、黄色・オレンジ・赤の暖色系は定番！食品には食欲を欠かせるブルー系の色を用いることはタブーとされているのですが、その中でもティファニーブルーを使っている「東京カンパネラ」。各社定番の暖色系商品が並ぶ中、トリッキーで一際目立っていました。また、「東京とろ～りショコラ」こちらもブルー系のパッケージ！

2つの共通点は、商品自体が茶色！！

…ということは、松前屋の佃煮も『らしくない』ブルーパッケージはありなのかも？企画室としてはチャレンジ項目となりそうです。



～心齋橋は心配橋～

大丸の北側にあった 文具屋の『河内洋画材店』の場所が突然ビルの工事に入り、『カワチさん、とうとうお前もかぁ!』っとお仲間を失った感じに襲われました。 100 年ほどの歴史ある路面店がまたまた消える…、と勘違いしたようで、河内さんはお元気にも、ビルの建て替えだったようです。

こうしてみると、100 年以上にわたって心齋橋商店街(長堀～道頓堀)にお店を構えて、今もなお同様のお商売をやり続けているのは、185 店舗中わずかに7店舗です。江戸時代からでは、呉服屋の小大丸(1785 年～)、本福寿司(1829 年～)。なかでもお香の伊藤仁寿堂(1675 年～)は極端に古く、しょっちゅうシャッターを下ろしている現在の営業姿勢は余裕の表れか、歴史のなせる業か?! ゆる～いあの感じが長寿の秘訣なのかもしれません。

一大成功例としては、大丸さん(1726 年～)。 巨大化して、なんでも屋さんの百貨店になっていったので、これは異質ではありません。 いや、『そごう百貨店』が消えたことからすれば、やはりすごいことか…。 これら江戸時代発のお店はいずれも『超老舗』ですね。



明治に入って、増田漆器店(1867 年～)、松前屋(1912 年明治 45 年)、そして河内洋画材店(1920 年～)となり、戦争で一面焼け野原になった心齋橋の復興後もなおお店を復活させて続いてきたわけです。

松前屋創業頃の 100 年前の心齋橋は、呉服・履物・服飾の高級品を扱う小売店が軒を並べ、商売人にとっての憧れの地でした。 しかし一方で『心齋橋は心配橋』とも言われ、浮き沈みが激しいため長く商売を続けるのが難しい土地だったそうです。 それは現在も同じで、地元のオーナー店舗さんらは次々と店を閉めて、不動産オーナーとして今流のお店をリレーするという手法で今も心齋橋におられます。 ふう～む、この方が賢いのかな…。

とはいえ、大丸・小大丸以外の『生き残り』5店からすると、服飾・宝飾中心だった心齋橋での生き残りの秘訣は、流行り廃りとは違った伝統的な部分が共通点かもしれませんね。



カワチさんの建て替えをきっかけに、思わず過去を振り返ってしまいました。 松前屋のこのビルも、大阪市の戦後復興助成金の第一号で立てられたもの。 ぼちぼち考えねばならんのでしょうか、そんな元気がありますか…。

健康法師の独り言 パート 52

撃退! 加齢臭の巻

夏も近くなってきましたと、汗をかく機会も増えてきました。 冬場にはかかかった汗の始めは、なんとはなく臭いも気になるどころです。

しかし、夏も冬も関係なく気になるのは加齢臭。 旦那さんの枕や車のあのいやな臭いで困っている奥さまや娘さんも多いはず。 しかし、実は若い女性ですら最近の問題となってきたのです。 中高年のオジサン臭いと思われがちに加齢臭ですが、女性ホルモンの影響でオジサンほどではないにしても、ストレスや生活習慣の原因で女性にも頻繁にみられるようになりつつあります。 発生メカニズムは男女に関係なく、共通のものようです。

この加齢臭、自分では今一つ気が付いてないところが大変です。 頭皮・耳や首の後ろ・小鼻の横・胸元・背中などから発生するようで、なぜか上半身に集中しています。 ロウソクや古本屋チーズの臭いと言われますが、皮脂中の『パルミトリン酸』というモノが酸化して『ノネナール』という物質に変化して、これが臭いを発生させている様です。 誰もが皮脂があつて酸化はされるのですが、特に40歳以降の男性の場合、皮脂中の『パルミトリン酸』が多くなることから、オジサンの専売特許のように言われてきたものようです。

この対策としては、要は皮脂の酸化を抑制すればよいのであって、抗酸化物質の投与で比較的簡単に改善することになります。 さて、抗酸化物質…。 以前にも鮭の赤色は『アスタキサンチン』というお話をしました。

アスタキサンチン12mgを4週間投与することで、ほぼ完全に匂いが消えるという実験がなされています。 『ガスクロマトグラフィー質量分析計』という微量な臭いを計測できる機械を使っても、ゼロという数値が出るそうです、お見事! 完璧! これは大いに期待できる結果ですので、旦那様にはおすすめてほしい処です。 ただ、ご当人に『臭い』が原因では勧めにくい場合は、①脂肪燃焼・ダイエット効果、②腸内環境を整える効果、③美肌効果、④持久力アップ、⑤眼精疲労対策、⑥過活動膀胱性頻尿対策 というアスタキサンチンの効用をもって飲ませるようにしましょう。

4週間後にはモチモチ間違いなし!

ご興味あるかたは検索してみてください
「アスタビータ」

<http://www.astavita.jp/index>



編集後記

皆さま、今回の通信はいかがでしたでしょうか。今年5月から気温が30度を越えた地域もあるようで、猛暑になると予想されます。熱中症にならないよう、お体には充分気を付けてお過ごしくださいね。

松村

